

令和3年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	73	学校名	静岡県立浜松湖東高等学校	校長名	白井 秀幸
------	----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果(○)と課題(◇)
ア	自ら学ぶ習慣を育成し、確かな学力を伸長させる。	自分自身の苦手箇所を正確に把握し、自分に合った学習を進められる生徒80%以上	66%	C	○到達度テストとスタディサプリの連動課題配信を行った。また、定期テストの範囲に関連したスタディサプリの課題を配信し、生徒の学習意欲を高めた。 ◇コロナ下でGoogle Classroomによる課題配信を使う機会が増えたため、スタディサプリの効果的な利用方法を検討する必要がある。
	探究的な学びを推進する。	情報発信力が身に付いたという生徒70%以上	61%	B	○「総合的な探究の時間」で生徒は1年かけて情報収集・分析をし発表を行った。生徒の取組は非常に前向きで、取組を通じ情報発信の方法について学ぶことができた。 ◇プログラムの各段階の内容を本校生徒の実態に合うよう工夫していく。
		自分の考えを表現できると答える生徒70%以上	56%	C	○授業や特別活動などでグループ学習を取り入れたり、授業の振り返りをプリントに記述させたり、自分の考えをまとめて他者に伝えるという機会は、以前より格段に増えている。 ◇教員が効果的に仕掛けていくことが必要であり、問い自体を工夫したり、褒めることで自信を持たせたりしながら、学校全体で取り組んでいくことが必要。
	「時を守り、場を清め、身を正す」指導をすすめ、規範意識を醸成する。	校内における私物の管理（机上やロッカーの上等に放置しない）ができる生徒95%以上	93%	B	○各学年ともに概ね目標は達成できた。清掃・美化活動・安全点検を教員・生徒ともにしっかり行うことができた。 ◇意識を高く持ち、継続をしていく。
		「生活面（服装・頭髪等）はしっかりしている」と答える生徒80%以上	86%	A	○生徒は真面目で生活面の乱れ等はほとんどない。気になる生徒には教員が声を掛け、粘り強く指導している。 ◇個別指導を継続することと教員間での情報交換により、生徒理解を深めていく。
	生徒が主体的に将来設計できるような進路指導を推進す	自分自身の実力を正確に把握し、自分に合った進路を決められる生徒80%以上	模試の復習指導やデジタルサービスの活用し、生徒の進路意識の高揚や進路選択	B	○大手進学塾が配信するデジタルサービスの活用方法を全職員で学び、生徒のデータを基にして、学習方法の見直しや進路意識を高揚につなげるよう準備をした。

様式第3号

る。		に資した。		◇低学年から継続して、模試の意義、学習や生活態度等が将来の進路にどのようにかかわってくるのか等を、繰り返し説明していく必要がある。
	本校の進路指導に対して満足と感じる卒業生90%以上	3年生の満足度は88%であった。	B	○3年部中心に粘り強く取り組み、概ね目標を達成できた。 ◇進路指導のスケジュールや生徒への学習指導の在り方、職員の役割分担等については、今後も検討し、より良い形にしていく。
全員が積極的に関り、主体性や社会性を育む。	県大会へ出場する部活動(大会等がない部活動は対外的活動実施)80%以上 各部活動による奉仕活動 年1回以上	大会等が中止となった部活動を除いて75%が出場又は実施。奉仕活動は達成できなかった。	B	○新型コロナウイルス感染症により苦しい状況にある中、各部活動とも積極的な取り組みを行った。 ◇感染症対策をしっかりと行いながら活動を継続し、主体性や自己肯定感を高めていく。
	生徒会行事等は生徒自らの企画・実行により行われていると感じる生徒80%以上	86%	A	○生徒・生徒会顧問ともに、コロナ禍での制限のなかで、懸命に検討を加え、縮小や見直しはあったものの、ほぼ予定した行事を行うことができた。 ◇コロナ禍における行事の実施可能な形態について継続して検討する。
一人ひとりが、諸活動に前向きに参加し、他者との関わりの中で自己肯定的感を醸成する。	本校の教員は自分のことを認めてくれていると感じる生徒80%以上	82%	A	○新入生全員に入学当初に1分間カウンセリングを実施し、生徒理解を測るとともに、安心して学校生活を送れるよう意識付けを行った。 ◇教員の「褒める・認める」意識をさらに高めていく。
	学校に安全・安心の場があると答える生徒80%以上	82%	A	○日頃の生徒の様子を教員は注意深く観察している。何かあれば担任や関係職員、相談室と情報共有をし、連携しながら生徒支援をした。 ◇1年生は環境が変わるために悩みを抱える生徒が出るので、サポートを厚くする
広い視野で物事を考えることができるよう、読書活動の充実を図る。	授業を含め図書館を利用したと答える生徒80%以上	17%	B	○通常の図書館運営業務に加え、本館1教室に「図書館出張コーナー」を設置し運営をした。このことにより貸出・返却の利便性が高まり、利用者も増した。生徒アンケートの数値は低いですが、1年生は図書館オリエンテーションで全クラスが利用し、3年生は課題研究で半数以上の生徒が利用している。 ◇授業・行事に関連した企画展示、定期的な図書館だよりの発行等を通じ、図書館と図書館出張コーナーの利用促進に努める。

イ	研修を充実し、その成果を共有することで、指導力の向上を図る。	授業見学、授業改善及び学習評価の校内研修、校外研修の内容を共有し、授業で実践した教職員70%以上	校外研修参加79% それを実践した割合67%	B	○年間を通じて、授業改善研修2回、学習評価研修2回、授業参観ウィーク2回を全員参加型で実施した。授業改善や観点別評価の理解を深め、来年度からの本格実施に取り組む契機となった。 ◇コロナ禍で中止となった校外研修があったことが残念。
	内規・各種規定の整理を行い、効果的な指導方法を検討する。	点検した内規・規定100% 各事業の目的の明確化100%	点検についてはほぼ達成できた。目的の明確化と見直しについては不十分である	B	○来年度からの新学習指導要領の導入や18歳成人への移行等に対応すべく、必要な内規や印刷物に改定を加えた。事務室では業務予定の共有化等により、時間外勤務を削減できた。 ◇従前から引き継がれてきた内規・規定が多く、新学習指導要領や本校のグランドデザインに合致するかという観点で整理点検をしていく。
	保護者、県民等への広報活動を充実する。	ホームページ更新数年100回以上 行事開催の案内通知と併せたメール配信の実施	ホームページ更新回数200回以上。 メール配信についても実施できた。	A	○外部団体の協力を仰ぎ、本校ホームページの刷新整理を行い、中学生向けに本校の魅力を発信した。また、行事やコロナ対策等の連絡を、こまめに保護者にメール配信した。 ◇次年度も継続していく。
	PTA・後援会・同窓会と連携した教育環境の整備を図る。	良い環境で学習・部活動ができていると感じる生徒70%以上	79%	A	○外郭団体と連携し、教員の要望について可能なものから執行する等、環境整備を進めた。 ◇引き続き、要望の把握に努めながら環境整備を進めていく。
	施設設備の充実を図る。	危険性の早期把握、迅速な対策、及び利便性の向上	日常的な校内巡視を通じ、危険個所の把握、記録、迅速な応急措置を行った。	B	○非常階段の修理、壊れていた南門の更新工事など、危険性の排除、利便性の回復をすることができた。 ◇教育環境の整備充実のため、引き続き県に予算要求等を行っていく。